

# 伝統文化の 源流に触れる

2015年3月22日(日)

■12:30～開場 ■13:00～開演 ■15:30終了予定 ■会場：国立文楽劇場・小ホール



## <第1部> 「西陣織」について

やまぐち ゆたか  
講演：山口 豊氏

「西陣織」とは、京都の西陣で発展、伝承されてきた先染めの織物を総称しており、綾、錦、金襴などの高級織物を中心に現在も数多くの作品が作られています。

山口豊氏は、西陣にある老舗の機業所に生まれ育ち、山口織物株式会社に長年勤務して織物の製作を続けてこられました。代表作の中には、能装束、祇園祭山鉾の水引、緞帳等がありますが、特筆すべきは、生糸から機織りまでの各工程で、材料、工法を自ら研究、開発して独自の創作をされてきたことです。生糸の製作、天然染料による糸染め、紋紙、機織りと、織物製作の最初から最後までを一人で手がけられる数少ないクリエイターです。今回は、「西陣織」に関するさまざまな事柄についてお話いただきます。



## <第2部> 常磐津

ときわす つなお つなみ  
出演：常磐津 綱男氏、常磐津 綱実氏、  
つなほう つなちか  
常磐津 綱鵬氏、常磐津 綱千華氏

「常磐津」は、今から二百七十年ほど前に、江戸の地で興った浄瑠璃系三味線音楽の一つです。歌舞伎舞踊音楽として欠かせない邦楽ですが、演奏のみの素浄瑠璃としても台詞の要素が大きく「聴く歌舞伎」として楽しみ、江戸時代大いに流行りました。曲調の特色は多岐にわたり、心中や道行等の艶物、仇討ちや化物征伐等の豪傑物、酒脱・滑稽物、重厚な曲調のご祝儀物、三番叟物等々があります。一般的に、拍子が安定して落ち着いた曲調のものが多く見受けられます。

今回は、一昨年世界遺産となった富士山と三保の松原を詠った曲と、江戸時代の市井の人物や風俗を舞踊曲にした常磐津の代表曲を紹介させていただきます。

みほのまつふじのあけぼの のりあいぶねえほうまんざい  
演目：「三保松富士晨明」、「乗合船恵方万歳」

※演目は変更になる場合がございます。

現地ご案内



- 会場／国立文楽劇場小ホール(大阪市中央区日本橋1-12-10)  
最寄駅： 堺筋線・千日前線「日本橋」駅下車  
7番出口より徒歩1分

- 参加無料  
事前にハガキもしくはメールに住所・氏名・電話番号をご記入の上、下記までお申し込みください。

- 主催・連絡先／一般社団法人老人文化会議(大阪市西区江之子島1-7-3)  
TEL:06-6444-2777  
E-mail:info@eldernets.or.jp

※お送りいただいた個人情報はこのイベントおよび、当法人が今後開催するイベントの際にのみ使用させていただきます。